

## 武漢事務所週刊ニュース（2014年9月13日～19日）

### イケア武漢店の売上は中国での記録を刷新

9月18日 長江日報

イケア武漢店が17日に正式にオープンした。16日、プレオープンの初日の売上は240万元（約4560万円 1元=19円で計算。以下同様。）、来店客数は2万4千人に達した。売上も来店客数も中国にある店舗の過去最高記録を更新した。来年の5月に全てのショッピングセンターがすべて開業すると、年間来店客数は2000万人、年間売上は18億元（約342億円）、4000人の雇用が見込まれる。

イケア武漢店のオープンは武漢市における大型商業施設開業となり、今年と来年に開業する予定の商業施設の総面積は、過去の累計面積の1.5倍となる。

「イケア武漢店のオープンにより、武漢は従来の商業構造を大きく変え、多元的かつ繁栄の時代に突入した」と唐良智市長が語った。現在、武漢には大型商業施設が20箇所あり、建設中の施設は48箇所、総投資額は2252億元（約4兆2788億円）に達した。

### 武漢初の医薬品購入アプリが発売

9月19日 長江日報

9月19日、武漢の企業が開発した「薬を買いに行こう」という

携帯アプリが発売され、最寄りの薬局の検索や、薬の購入・配送、問診などの機能を利用できる。

「薬を買いに行こう」アプリは、九州通医薬グループ傘下の「いい薬剤師」という調剤薬局チェーンにより開発され、適正な医薬品の購入サポートを行っている。このアプリを通じて、最寄りの薬局の検索や、医薬品の種類などを気軽にチェックできる。

2014年初めから、九州通医薬グループは、すでに21億元(約399億円)の融資を受け、医薬品の卸販売及びネット通販の展開に力を入れている。健康に関するプラットフォームの構築が今年目標である。

インターネットの普及とともに、オンラインでの医薬品の購入の増加が見込まれ、現在の国内における医薬品のネット通販による売上高は僅か40億元(約760億円)であるが、今後は3000億元(約5兆7000億円)の潜在的価値があるという。